

《教育目標》 自律・友愛・創造

「自らを律し、なかまを大切に、創造性豊かな人」

自らを鍛え、責任ある行動をとり、互いの立場を認め合い、ともに支え合い、高まりあう「なかまづくり」ができ、自らの「夢の実現」に向けて、何事にもチャレンジする創造性豊かな生徒の育成を目指す。

本校のHP…<http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=201407>

★「生きる力」を伸ばし、「自信と誇りにみちた生徒」を育成していく中で、生徒一人ひとりが持てる力を発揮し、各自の自己評価を高めるために創意工夫ある教育活動を実践する。(輝く松原づくり)



日	曜	行事等
1	水	I Can 5組お別れ遠足
2	木	職員会議
3	金	
4	土	
5	日	
6	月	
7	火	公立中期選抜
8	水	3年校外学習
9	木	公立中期選抜追試・3.4限「3年生を送る会」
10	金	3年球技大会
11	土	
12	日	
13	月	
14	火	1.2限 卒業式予行
15	水	卒業証書授与式
16	木	公立中期合格発表 1.2年球技大会
17	金	1.2年球技大会予備日
18	土	
19	日	
20	月	春分の日
21	火	修了式
22	水	春季休業(～4月5日)
23	木	公立後期選抜 小学校卒業式
24	金	小学校修了式
25	土	
26	日	
27	月	
28	火	
29	水	
30	木	
31	金	離任式



卒業おめでとう



平成29年2月27日発行

文責 宮田 功

保護者の皆さまに 「今の時代に育てる」

私事で恐縮ですが、飼犬を毎朝散歩に連れていきます。この時期は、白々と夜が明ける頃となり、歩いていると電柱の街灯が消えていきます。もちろん、省エネのためにセンサーが付けてあり、明るさを感じれば消える仕組みになっているのでしょう。そして、日が暮れ暗闇になれば、そこを歩く人のために街灯がつき、また、太陽が昇り明るくなれば、照らす必要のない灯は消えていきます。この何気ないことは、大人がよりよく子どもを育てていくための接し方に、どことなく似ているように感じました。

子どもにやる気や元気がないときは、一生懸命に励まし、子どもが頑張れているときは、陰からそっと見守る。子どもが自分のもつ力を出し切れていないと察すれば、寄り添って進むべき方向を共に考え助言する。自信をもって、自分の信じる道をどんどん進んでいこうとする状況と見取れば、口を挟まずその子の行為を認め称賛する。大人として、このように子どもの状態を見分け、対応していく力はとても大切なものですね。万一、逆の態度を取る大人が子どもの周りにいると大変なことになるでしょう。自信を失い迷っている子どもを見放し、頑張っている子に干渉しすぎたならば、子どもの成長する力を奪い、自己肯定感を下げてしまうことに繋がります。

思春期の中学生を育てておられる保護者の方や中学教師には、このようにわかりやすい論について、今更、書き綴る必要はなかったかとも思います。

ただ、時代が大きく変化する中で、大人としてどのように子どもに向き合えばよいのかは、なかなか

《裏に続きます》

4月の予定

6日…着任式・始業式 7日…入学式

10日…小学校入学式 18日…全国学力学習状況調査

難しくなっているのも確かです。子どもはいずれ社会に出て働くことになるのですが、とくに、このようなことに関して、大人としての助言は、以前より困難なものとなっていくように思われます。

オックスフォード大学のオズボーン准教授らが発表した「雇用の未来」(人口知能等の発達によって、人間がする仕事は半減する)という論文は世界に衝撃を与えるものでした。権威ある大学の先生が「あと10年で消滅する仕事」を一覧表にして示したから、驚きを隠せなかった人たちが多くいたといわれています。今、未成年の子どもをもっている親にとって、社会や仕事で我が身が経験してきたことは役に立たず、親としての「我が子への助言やアドバイスは時代遅れ」ということになりかねないという不安が募っているのではないのでしょうか。

自分たちが育った昭和のように、偏差値の高い学校から一流大企業というような一定のレールに乗せてしまえば、一生安泰だろうという考えでは、太刀打ちできない世の中になっていくという人もいます。全く予測不能な未来を生きなければならない子どもに対して、親は、我が子を迷わせないため、暗闇での明るい街灯のようになればと誰もが思います。とにかく、どんな時代が来ようとも、そこで踏ん張って食べていける子どもに育てるための親の方策を、実践することが最も大切です。それについて調べてみたので、下の4点にまとめていきます。

I 打たれ強い子に育てられる親

ある会社で上司に「バカヤロー、辞めちまえ!」と言われただけで本当に辞めた新人がいたようです。先行き不透明な世の中で必要なのは、「打たれ強さ」です。親は子どもが幼いときから、失敗させることを恐れのではなく、失敗したことを「経験値が増えた」と言って逆に喜んであげましょう。どうしようもない失敗をしたときこそ、「(あなたは)大丈夫」と言って、動じない最後の砦となれたならば、その子は「こころ一番」のときには、粘り強さを発揮できる人間になっていくのではないのでしょうか。

II 「先送り」をしない親

子どもが世の中で「初めて出会うもの」との瞬間を見逃さないことが重要です。例えば、生まれて初めて我が子が箸を持つ瞬間に、きちんと正しい持ち方を教えてあげましょう。めんどうだから後でいいやと、先送りをしたとするならば、我が子が長じたときに、矯正しようとしても膨大な手間と時間がかかってしまいます。初めて出会う「提出物の期限」、初めて出会う進路選択、初めて出会うPCやスマホなど等。ありとあらゆる我が子が出会う「初めまして」に心を配ることは大切です。最初が肝心!

III 小さな長所を発見し褒める親

親は子どものためと思い「短所を矯正」することに力を入れがちですが、生きるに当たって、それはさほど重要なことではありません。なぜなら、短所は長所の裏返しだからです。子どもの長所、あるいは得意なことを瞬時に褒めて、的確にアドバイスすることで子ども自身の「自信」に繋がるように「洗脳」していくのは、親の務めとなります。「自己肯定感」をもって成長できた子どもは間違いなく幸せになります。

IV 「人の役に立つ」素晴らしさを教えられる親

人間は誰かのために何かをやれるということに、幸せを感じる生き物です。それゆえ、我が子が幼い頃より「この仕事は世の中にこう役立っている」という視点で解説してあげる家庭に育つと、職業観が自然とついていきます。もちろん、親自身が社会に貢献し、努力している一人の社会人(専業主婦ならば家庭に貢献している)であるという背中を見せ続けることは、とても大事なことだと思います。

小さな巨匠展

2月2日(木)~5日(日)まで、京都市美術館の別館において、開催されました。本校の育成学級からの作品も展示されていました。



京都市中学校卓球新人大会

2月5日(日)に洛星中学校で個人戦が実施され、本校生徒も活躍しました。
2年生女子の部…谷垣(3位)・松本(ベスト16)・高尾(ベスト32)
1年生女子の部…出嶋(ベスト8)
1年生男子の部…脇(ベスト16)・嶋田(ベスト32)

百人一首大会

2月16日(木)に1年生、17日(金)には、2年生が、それぞれ百人一首大会を実施しました。寒い体育館で行われましたが、どちらの学年も礼を取ることに、一生懸命になっている姿を数多く見かけました。



伝統文化教育 研究報告会

平成27・28年度国立教育政策研究所の教育課程研究指定校となっている本校では、伝統文化教育についての実践的な研究を報告しました。2月14日(火)に文科省や教育委員会の人、全国の各地から多くの教職員が来校される中、1年2組の国語の授業を参観いただき、続いて体育館で、1・2年生による「総合的な時間」の発表を見てもらいました。3年生の取組は、映像で紹介しました。生徒の発表のすばらしさを、多くの人に褒めてもらいました。

